

[報告]

ショッピングモール常設専用駐車場を用いた 「献血ステーション」の活用 ～1会場年間献血者1万人の達成～

岡山県赤十字血液センター

櫻井 聰, 今脇崇行, 古谷野智, 沼本高志, 廣江善男, 内藤一憲,
村上文一, 大森久仁子, 川邊 修, 池田和眞

Achievement of 10,000 donations per year at “Blood Donation Station” in a shopping mall using a designated and exclusive parking lot for a blood mobile

Okayama Red Cross Blood Center

Satoshi Sakurai, Takayuki Imawaki, Satoshi Koyano, Takashi Numoto, Yoshio Hiroe,
Kazunori Naito, Fumikazu Murakami, Kuniko Omori, Osamu Kawabe and Kazuma Ikeda

抄 錄

岡山県赤十字血液センターでは、平成11年11月より郊外型ショッピングモールでの献血を実施しており、平成23年6月末に移動採血車用の常設専用駐車場が提供され、いつでも移動採血車を配車することにより、献血の受け入れが可能となる「献血ステーション」が誕生した。献血の受付は、これまでと同様に店内に配置し、翌月より利用を開始した。今回我々は、献血ステーションを活用した1会場年間1万人献血を目標に掲げて活動し、献血ステーションおよび受付時間延長の効果を検証した。

献血ステーション設置により、平成23年は稼働数、献血者数とともに設置前より増加したが平日の配車を増加させたため、1稼働あたりの400mL採血数は大幅に低下した。改善策として、平成24年7月から受付時間を2時間延長し、同じ稼働数161台で献血者数9,758人、1稼働あたりの400mL採血数は60.6人に改善された。

平成25年は稼働数を180台に増加させ1会場年間1万人献血を達成することができた。

Key words: movement blood donation car, blood donation station,
shopping mall

【はじめに】

イオンモール倉敷の所在地である倉敷市は、水島臨海工業地帯を有し勤務体系が多様な都市であ

る。人口は約48万人¹⁾で、岡山県(人口約190万人²⁾)第二の都市でもある。また、イオンモール倉敷は中心部の倉敷駅から約2kmに位置し、駐

車台数は4,700台、イベント力やテナントの創意工夫により、県外からの買い物客等も多い郊外型ショッピングモールである。平成25年7月～平成26年6月の岡山県内の移動採血稼働数975台のうち、180台(約18.6%)がイオンモール倉敷で献血を実施しており、岡山県の献血会場の核となる存在である。

献血の受付場所(図1)は、人の往来も多いメイン通路の中央エスカレーター前に配置し、エスカレータ側面には献血の基準・実施日のポスター等が常に掲示できるパネルが設置されている。通常であれば有償のスペースも無償で提供された。また、献血ステーションまでは約100mの距離があり、店舗の外に出るもの、雨に濡れることなく移動ができる(図2)。

岡山県では臓器移植に代表される高度医療の集積度が高く、近年は輸血用血液製剤の使用量が増加傾向にあり、人口当たりの使用量は全国的にも上位に位置する。総人口当たりの献血率も4.6%と全国平均(4.0%)以上⁴⁾の協力を得ているが、平成21年度から平成24年度までは自給自足ができず、日々献血者の確保に苦慮していた。今回、「献血ステーション」設置により、献血実施日数の増加や全国のイオンモールでの日本一の献血実績を

求められた背景もあり、これまで月間8台しか配車できなかった制限が解除され、自給自足を目的とし、献血実施日を大幅に増加させ献血者の確保を試みた。

【方 法】

「献血ステーション」は、固定施設ではなく365日、いつでも移動採血車を配車することにより、献血の受け入れが可能となる献血会場である。献血ステーションは専用の常設駐車場に「献血ステーション」と表示されており、専用の電源、専用の排気システムも整備されている(図3)。

下記の期間別の移動採血稼働数、献血者数、1稼働あたりの採血数(人/台)等を比較し検証した。

期間(1) 平成22年7月～平成23年6月：献血ステーション設置前

期間(2) 平成23年7月～平成24年6月：献血ステーション設置後

期間(3) 平成24年7月～平成25年6月：受付時間2時間延長開始後

期間(4) 平成25年7月～平成26年6月：受付時間2時間延長継続・稼働数増加



図1 献血受付(中央エスカレーター前)

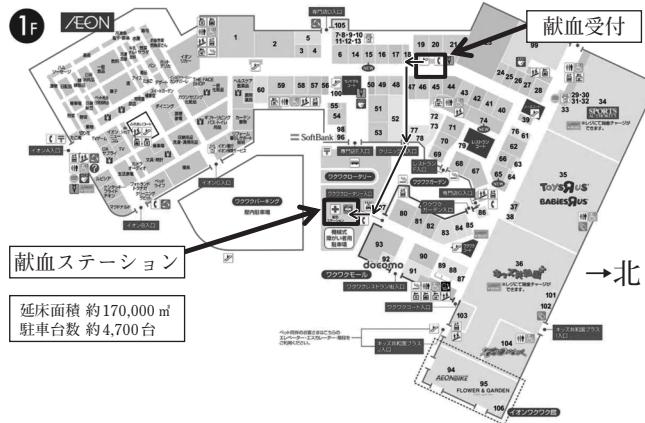


図2 イオンモール倉敷1F平面図

献血ステーション表示



検診車



献血ステーション左右天井に「献血専用排気システム」



図3 献血ステーション

【結 果】

献血ステーション設置前の期間(1)では移動採血稼働数97台、400mL献血者数5,355人、1稼働あたりの400mL採血数は55.2人、献血ステー

ション設置後の期間(2)では移動採血稼働数161台、400mL献血者数7,301人で期間(1)よりも増加(64台、1,946人)したものの、平日の配車を増加させたため、結果として1稼働あたりの

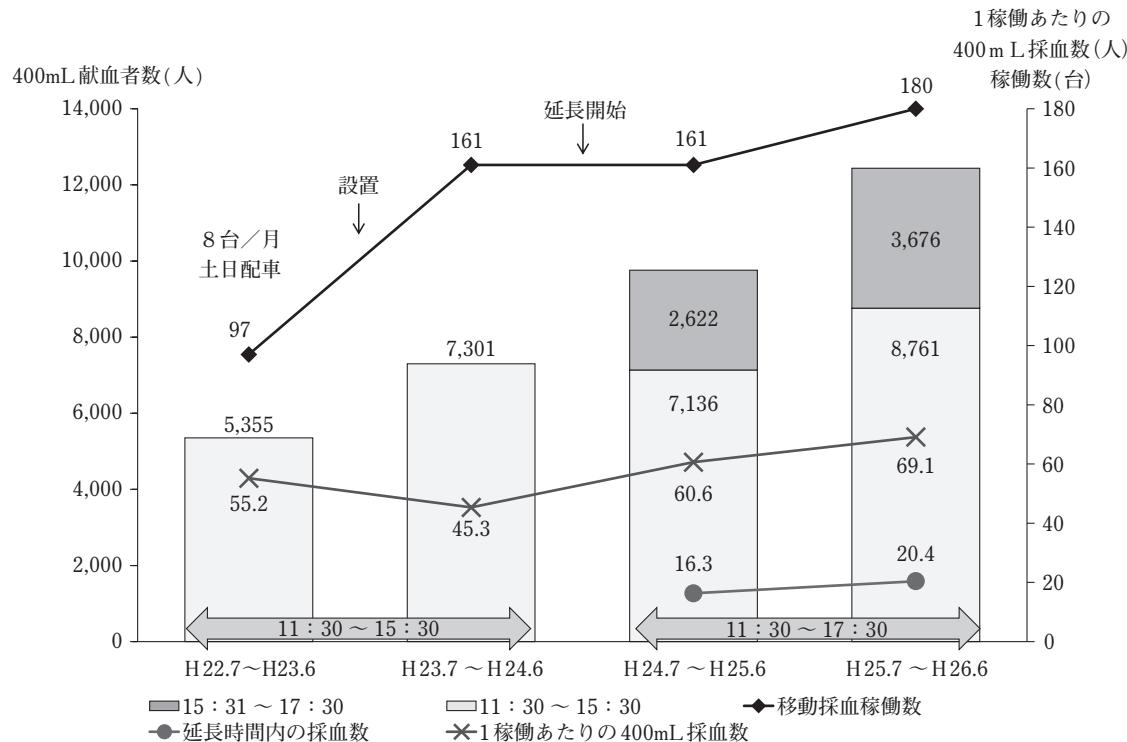


図4 献血ステーション設置および受付時間延長の効果

400mL採血数は55.2人から45.3人と大幅に減少(9.9人/台)した(図4)。

受付時間を2時間延長した期間(3)は同じ移動採血稼働数161台で、延長による2,622人をあわせて400mL献血者数9,758人、1稼働あたりの400mL採血数も60.6人と改善され、さらに移動採血稼働数を180台に増加させた期間(4)では、受付時間延長による3,676人をあわせて、400mL献血者数12,437人、1稼働あたりの400mL採血数69.1人と飛躍的に上昇した(図4)。その結果、全国のイオンモールで年間献血量「日本一」を獲得した。

【考 察】

平成23年6月の献血ステーション設置により、献血実施日の増加と全国のイオンモールで日本一を目指したこと、および当センターの自給自足を目的に平日の配車を増加させた結果、1稼働あ

りの採血数は一時減少した。平成24年7月～12月の1稼働あたりの採血数減少を受け、献血実施日の見直しや、平日は来客数が多いお客様感謝デー等のイベントデーおよび学生の長期休暇期間を中心に献血実施日を設定するなどの対策を実施した。また、元来、受付時間が15：30までと夕方の来客数が多い時間帯を待たずに献血の受付時間を終了していたが、受付時間を延長させることにより、新たな献血者を確保することが可能となり献血者増加の要因となった。子供たちが楽しめるイベント実施の要望もあり、平成24年11月にキッズ献血³⁾を展開するなど両者が協力し合い献血の広報および周知活動にも努めてきた。

献血実施日が多くなることにより献血協力者の期間不足を危惧し、日々の献血実施日において稼働率が減少する心配もあったが、各種イベントのメディアによる露出件数の増加や高校生を対象とした赤十字出前講座やキッズ献血等の努力と併

せ、献血者数を増加させることができた。

受付時間を延長開始した期間(3)と比較して受付時間延長継続した期間(4)の増加要因は、岡山県赤十字血液センターの1稼働あたりの400mL全血献血の採血数を55人と具体的な数値目標を設定したことにより職員全体の意識が大きく変わり、目標達成のため熱心な声かけ等により多くの方の協力が得られるようになり、職員の自信にも繋がり“やればできる”ことを改めて認識したこと、また、受付時間の延長を開始して2年目となり、より多くのお客様に広く浸透したことも考えられる。その結果として目標とした1万人を達成

することができた。

イオンモール倉敷の「献血ステーション」設置により、現場のスタッフからの来場者数および滞在時間等の情報を基に、受付時間や献血実施日等の効率的な配車を行った結果、献血実施日を増加させても1稼働あたりの採血数が低下しないことが検証できた。

最後にイオンモール倉敷より職員のマナーや積極的な活動が評価され、「優秀パートナー賞」を受賞したことや全国のイオンモールで「日本一」を獲得できたことも誇りである。

文 献

- 1) 倉敷市 総務局／総務課／統計係
<http://www.city.kurashiki.okayama.jp/toukei/>
- 2) 岡山県 県政情報／統計
<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-13892.html>

- 3) 水畠大輔ほか：若年層献血推進のため岡山県学生献血推進連盟の協力を得て実施した「キッズ献血」、
血液事業, 37 : 147 ~ 149, 2014
- 4) 日本赤十字社血液事業本部：献血状況、血液事業
年度報、平成25年度、1~2、2014